

ろくぶん通信

発行日： 1992年4月15日

No. 43号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

図表の処理について

録音製作係 清水賢造

図の多い作品の処理について今回は考えてみます。

1. 図などを省略する場合の処理

○録音図書凡例で省略する理由を説明し、本文では総て読まない。

2. 図の説明を省略する場合の処理

○録音図書凡例で図の項目や説明文だけを読み、説明を省略することを断わる

本文では、「〇〇頁、図、〇〇〇、……図終わり」とする。時々、説明していないのに「説明終わり」と云う場合があるので注意する。

○必要な図のみ説明し、後は総て省略するときの処理

録音図書凡例で、その旨断わる。

例：「図は本文中に説明のないもののみ説明します。」

○必要な図のみ説明し、後は項目や説明文のみ読むときの処理

例：「図は本文中で殆ど説明してありますので、説明のないもののみ行い、重複するものは項目（説明文）のみ録音してあります。」

3. 説明する時の配慮

○図を説明する場合も、本文の理解を助けるような説明を心がける必要があります。図に書かれていることを総て説明するか、必要な範囲にするかなどの判断は、その図の意図、本文との関係、説明に要する時間なども考えて行います。

○図をどこで説明するか。

本文の流れ、図の役割などを考え、文中に入れるか、別テープにまとめて録音するかなどの

判断をする(構成上の処理)。まとめて別テープに録音する場合、本文でも適当なところに「〇頁、図1、〇〇、図終わり」と入れる。この場合、図などに通し番号が無い時には、音訳者の方で「通し番号」を付けるようにすると親切でしょう。

○写真・図・表などが総て「図」として通し番号が付けられている時

本によっては、写真や表、図などが総て「図」として通し番号が付けられているものもあります。その場合、項目だけを読んだだけでは、写真なのか、表なのか、図なのかわかりません。その都度説明するか、音訳者が「〇頁、写真〇〇とか、〇頁、表〇〇」と読みかえる必要があります。特に項目だけを読んで説明を省略する時には配慮が必要です。

○図・表・グラフ・絵(カット)・写真・スケッチなどの説明で、表や図の混同などが時々見られます。図と表との区別はつけるようにしましょう。図には、流れ図、家系図などがあり、図の範疇のグラフには、『円グラフ』『棒グラフ』『絵グラフ』『帯グラフ』『系統樹』『折線グラフ』『クライモグラフ』『レーダーチャート』『正方形グラフ』などがあります。どのグラフかも分かるようにしましょう。

○図の説明は簡潔にポイントを押さえて行います。図の形が問題になっている時は別にして、見たままを伝えることが問題ではなく、図で表わしている内容を簡潔に分かりやすく伝えることが大切です。縦と横の項目を読み上げた後、数値などを読まずに「〇〇は実線で表わされています。」とだけ説明して終わる方も見られますが、これでは聞き手は消化不良になってしまいます。

○項目が多く複雑な場合の処理

単純な項目ばかりとは限りません。項目の内容が複雑だったりすると混乱することもあります。説明の時に項目数を言って、項目を読むときには番号を付けて読むなどの配慮も必要でしょう。系統樹などの説明のときにも最初に枝の数を説明し、さらに枝別れした項目の数を言ってから番号を付けて説明していくと分かりやすくなります。

○順序をかえて読む場合もあります。

普通順序は、「〇〇頁、図、〇〇〇、・・・説明文、説明・・・説明おわり」となりますが、時には「〇〇頁、図、〇〇〇、説明……、説明文……図おわり」と読んだ方が分かりやすい時があります。これは説明文が「図の様に……」となっていて先に図の説明をしないと分からないような時です。

*注意 「例」はあくまで参考にしてください。それぞれの原本にふさわしい断わり方をしましょう。

正誤表から・・・その18

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
木霊	モクレイ	コダマ	内包	ナイボウ	ナイホウ
福音	フクオン	フクイン	画然	ガゼン	カクゼン
流罪	リュウザイ	ルザイ	仲違い	ナカチガイ	ナカタガイ
流言	ルゴン	リュガン/ルガン	泥炭	ドロタン	デイタン

二通りの読み方があるがそれぞれ意味が異なるもの・・・その5

思惑	オモワク シワク	ル意図ヲ持ツ考エ 仏教用語	日長	ニツチョウ ヒナガ	科学用語 昼の長いこと
深々	フカブカ シンシン	ゆったりと、深い 静まり返った様子	柏手	ハクシュ カシワデ	賛意、激励が、ノ気持ヲ表ス 参拝の時鳴らす
和名	ワミョウ ワメイ	異国人ノ日本デノ呼び名 動植物の日本名	山川	ヤマカワ ヤマガワ	山と川 山を流れる川

— Q & A —

◇◇ このコーナーでは質問にお答えします。どんな事でも結構ですのでご質問があれば、お寄せください。

Q：録音したものを聞くと声が大きくなったり小さくなったりして不安定なのですがどうしてでしょうか。

A：まず、録音機による問題もあります。自動録音の場合、機械の方でボリューム調整を行いますので、静かになったら自動的にボリュームが大きくなります。‘間’などを取ったり、いきなり訂正を行うと、出だしがどうしても大きく録音されてしまいます。これをなくすには、ポーズ状態で一旦声を出してボリュームを適正にしてから、ポーズを解除して録音しなくてはなりません。手動録音の場合はボリュームが勝手に変わることはありませんので、この心配はありません。しかし、マイクと口との距離が変化すると録音レベルが変わります。また、マイクと口の角度が変わっても録音レベルは大きく変わります。特に、マイクと口との距離が短い人は、音声中に顔が動くとボリュームは大きく変わります。録音中は、マイクとの距離が変化しないよう一定の姿勢を保って録音することが大切です。

リクエスト図書一覧

下記の図書は利用者から原本を用意されて製作依頼を受けています。音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、下記までご連絡ください。はじめてのグループも歓迎いたします。
(連絡先: 06-441-0015 盲人情報文化センター録音製作係・清水)

- 『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』 /高橋邦芳著: <情報科学、専門書>
『新世代ビジュアルワーク「遊・名人Ver.2.0」操作ガイド』 /ユバース事業部著: <コンピュータ>
『会社法』 /鈴木竹雄著: <法律>
『エドガー・ケイシーの超能力健康法』 ハロルド・J. レイリ著: <医学>
『図解/簡明針灸脈診法』 藤本連風著: <医学>
『中国傷寒論解説』 劉渡舟著: <医学>
『統一協会と文鮮明』 和賀真也編著: <宗教>
『新トレーニング革命』 小山裕史著: <スポーツ>
『大使館』(上)(下)レスリー・ウォラー著: <外国文学>
『あなたがのむ病院の薬』の一部分<医学>
『歴史学の再生』 黒田俊雄著: <歴史>
『整骨学』 日本柔道整復師会学術委員会編: <医学>

<>内は分類

音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

- 『現代なぜなぜ事典 もの知りデターバンク』: <社会科学>
『総統医学提唱論』 多田政一著: <医学> ICCBリクエストチーム
『心の小箱』 堀田和成著: <宗教> えくてもあ
『体癖 第2巻』 野口晴哉著: <医学> ICCBリクエストチーム
『愛を与えることの幸福』 大川きょう子著: <宗教> ICCBリクエストチーム